

## 第6回 エサキアメンボ

アメンボというと、スマートな体で水面をすいすいと泳ぐ優雅な虫のイメージがありますが、実は肉食性で獲物を捕まえる行動は、かなりの気性の荒さを感じます。アメンボが水面に浮かんでいるときは、決してノンビリしているわけではなく、常にまわりにいる仲間と牽制しあっています。そのためアメンボのいる池や水溜まりをよく見ると、それぞれの個体がほとんど等間隔に距離を保っています。そして、自分の近くに落ちた虫などの餌を、他の個体よりも素早く捉えます。普通、水面にいるアメンボの数とたまたま水面に落ちる餌の数では、圧倒的にアメンボの方が多いので、他の個体よりも多くの餌を捉えるために、水面を滑る方法が発達したのだと思われます。

さて河北潟には、アメンボ（ナミアメンボ）、ヒメアメンボ、ハネナシアメンボ、エサキアメンボ、シマアメンボなど多くの種類のアメンボがいます。

アメンボ（ナミアメンボ）は、潟の中でも岸よりの植生が入り組んだ場所や、排水路などのやや広い水面に多くみられます。ヒメアメンボは、アメンボのいるところでも見られますが、水田でもよく見かけます。ハネナシアメンボはヒシの生えた水路などによく見かけます。シマアメンボは、山地の沢などの流水によく見られる種ですが、河北潟では、干拓地の支線排水路にしばしば見られます。低地である河北潟には、本来シマアメンボの好む流水環境はほとんどないのですが、人工的につくられた支線排水路は、適度な勾配があって水が良く流れているので、そこをすみかとするようになったのだと思われます。

ところで、今回の表題のエサキアメンボは、ヨシ原の中に潜んでいるアメンボです。ヨシ原の多い河北潟の環境を代表する生物のひとつです。アメンボやヒメアメンボと比べると小柄で華奢な体つきをしていて、一見して弱々しいアメンボです。広い水面をヒメアメンボが占拠しているときに、ひっそりとヨシ原のなかに隠れています。そのため、ヨシ原をかき分けて丹念に調べないと見つかることができません。エサキアメンボは全国的にも絶滅が危惧されている種ですが、河北潟でも幻のアメンボとなりつつあります。2001年にそれまで知られていた唯一の生息地であった水路が埋められてしまっからは、しばらくの間、河北潟での生息が確認されていませんでした。やっと最近になって、干拓地内の一角に生息していることが確認されました。

(文 高橋 久)

カコちゃん  
ジロウくん

かいほくが たぬいドレン

